

# 策定プロセス訪問調査事例

岡山県奈義町

## 岡山県奈義町

### 1. 奈義町の概要

- ・岡山県東北部、鳥取県境の町。自衛隊の縮小により人口が減少。  
人口7,200人、面積69k㎡、高齢化率22.2%、年間出生数68人。
- ・愛育委員をはじめ地区組織活動が活発。
- ・管轄保健所（勝央地域保健センター） 管内人口 65,000人、8町2村

### 3. 訪問調査でわかった策定プロセスの売り

- ・良い仕事は、人とのつながり。人間関係と連携。
- ・保健所のバックアップ体制

### 4. 各策定段階の促進要因

#### 1) 準備段階、合意形成

- ・保健所長が町長に計画策定の必要性について説明
- ・母子保健担当の保健婦（キーマン）が、課内・関係機関をまわり調整。  
課長が首長に策定の必要性を積極的に説明。
- ・積極的に研修を受講。  
県主催の説明会、住民参加型計画づくり、KJ法の研修会を受講  
保健所主催の町・衛生担当者課長会議。
- ・町の課内職員全員と保健所保健婦がKJ法を使い意志統一。
- ・愛育会活動が活発で計画策定に積極的だった。
- ・課長補佐が計画策定の当初予算を獲得、課員が協力実施できる環境を整備。

#### 2) ニーズ把握

- ・課長補佐が関係課等と調整し、会議の中から関係職員の意見・要望を収集。
- ・愛育委員、栄養委員、主任児童委員、各PTA会長、母親委員、母子クラブなどからの意見聴取。愛育会が就学前の児をもつ母親、妊婦等にアンケートを実施。
- ・保健所が、広域的な情報、町の母子保健に関する統計情報を提供

#### 3) 計画化

- ・町の会議に保健所の婦長と担当保健婦が参加しアドバイス。
- ・担当保健婦が原案作成の集中できるように業務を調整した。
- ・平成8年度に保健婦が1名増員され3名体制になった。

#### 4) 施策の実現

- ・「上司の仕事は予算を獲得すること」という課長、補佐の姿勢。

#### 5) 住民参加：愛育会が計画策定に積極的。

#### 6) 保健所の役割

- ・保健所長が、計画策定の必要性を町長に説明。
- ・計画策定以前から母子保健に関する纏めの積み重ね。（資料提供と方向性の提示、課題抽出）
- ・町担当者への助言、支援（町の目標に沿った働きかけ）
- ・研修機能

2. 平成8年度 奈義町母子保健対策及び育児支援施策

	1歳	1.6歳	2歳	3歳	就学	思春期	結婚	妊娠	
保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭訪問</li> <li>● 乳児健診 (4回/年)</li> <li>● 育児相談 (4回/年)</li> <li>● 離乳食セミナー (4回/年)</li> <li>● 神経芽細胞腫検査セットの配布</li> <li>● 予防接種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1.6歳児健診+ (4回/年) 幼児食おやつ指導</li> <li>● 2歳児健康教室 (4回/年)</li> <li>● ゆうゆう子育て教室 (3回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3歳児健診+ (4回/年) 幼児食おやつ指導</li> <li>● 親子で工作やリトミック... 講義があります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 思春期健康づくり事業 (思春期ふれあい体験学習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母子手帳の交付 (3回/年)</li> <li>● マタニティスクール (3回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母子手帳の交付 (3回/年)</li> <li>● マタニティスクール (3回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母子手帳の交付 (3回/年)</li> <li>● マタニティスクール (3回/年)</li> </ul>	
教育委員会等関係課	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おとしよりの人と毎目一緒にお誕生会をするんだよみんなは楽しみなんだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ひとりぐらし老人と保育園のふれあい事業</li> <li>● 誕生会</li> <li>● 運動会</li> <li>● おひなまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼稚園との連絡</li> <li>● 家庭教育学級</li> <li>● 就学指導委員会</li> <li>● ともども会 (幼稚園～高校)</li> <li>● 生涯学習</li> <li>● なぎの子じゅく (小学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PTA活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>
地区組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母子クラブの育成</li> <li>● 愛育委員会の育成</li> <li>● 栄養委員会の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ひとりぐらし老人と保育園のふれあい事業</li> <li>● 誕生会</li> <li>● 運動会</li> <li>● おひなまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼稚園との連絡</li> <li>● 家庭教育学級</li> <li>● 就学指導委員会</li> <li>● ともども会 (幼稚園～高校)</li> <li>● 生涯学習</li> <li>● なぎの子じゅく (小学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PTA活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出生届</li> <li>● 乳幼児医療公費負担 (3歳未満全額無料)</li> <li>● 誕生記念アルバム配布</li> <li>● 出産祝金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ひとりぐらし老人と保育園のふれあい事業</li> <li>● 誕生会</li> <li>● 運動会</li> <li>● おひなまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼稚園との連絡</li> <li>● 家庭教育学級</li> <li>● 就学指導委員会</li> <li>● ともども会 (幼稚園～高校)</li> <li>● 生涯学習</li> <li>● なぎの子じゅく (小学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PTA活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援 (小・中学生)</li> <li>● こども歌舞教室 (小・中学生)</li> <li>● ジュニアコーラススクール (小・中・高校生)</li> <li>● FOS少年団の育成</li> <li>● ムービーフェスティバル</li> </ul>

# 母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (奈良町)

記載担当者 (役場 保健婦 植月尚子)

(保健所 主幹 井上万里子)

	市町村行政内部の作業	住民参加	保健所の関与
<p>【I】事例の概要</p>	<p>市町村</p> <p>・人口 7, 200人。・那岐山麓に広がる緑豊かな町。・鳥取県との県境の町。 ・自衛隊駐屯地のある町。・人口の減少(自衛隊の縮小)、高齢化、少子化の進む町。若者の定住化が問題。少子化の中、地域での子育て機能の低下、家庭の子育て機能の低下が問題。・愛育委員をはじめとする地区組織活動が活発である。・首長をはじめ、行政全体が、計画書の策定などに関する予算への理解がある。</p>	<p>・愛育委員会で母子保健計画の策定についての話をし、協力を求めた。 ・数年前から、愛育委員本来の母子保健事業に積極的に取り組み、会長をはじめいたため、会長をはじめ策定に意欲的であった。 ・平成6年度に子育て調査をしており役だった。</p>	<p>・管内保健婦会 10回/年間 ・保健担当課長会議 (隔月、隔週) 2~3回/年間 ・保健所と町の連絡会(隔週、隔月) 2回/年間</p>
<p>【II】計画策定の準備</p>	<p>・母子保健担当の保健婦が、キーマンとなり、課長をはじめとする課内・関係機関との調整を行った。 ・課長が、策定の必要性等を首長等に早くから積極的に説明した。 ・課長補佐(事務)と担当保健婦(キーマン)が一緒に、県の実施する研修を行った。(住民参加型計画作りを学んだ) ・保健所との連絡会で、地区診断の方法を学びたいとの意見が出、課長補佐・保健婦・県保健婦とで、KJ法を学ぶ研修をした。 ・管内保健婦会で、母子保健計画策定の研修を受けた。 ・課内職員全員と、保健所保健婦とで計画策定の周知徹底、意識統一と盛り上げを図るため、話し合いをKJ法を活用して行いおおいに盛り上がる。</p>	<p>・愛育委員会で母子保健計画の策定についての話をし、協力を求めた。 ・数年前から、愛育委員本来の母子保健事業に積極的に取り組み、会長をはじめいたため、会長をはじめ策定に意欲的であった。 ・平成6年度に子育て調査をしており役だった。</p>	<p>・(県)説明会・研修会の開催した(保健所) 町・衛生担当者課長会議で計画策定指針の説明をした ・管内保健婦会で、平成7年度より母子保健事業について継続討議をしてきた。 ・管内保健婦会で研修を実施 講師 策定モデル町保健婦</p>
<p>◆その他計画策定のための環境づくり</p>	<p>・課長補佐が、印刷製本費・時間外等の予算を当初で獲得、原案のできた段階で倍の額を企画財政課に交渉し、修正予算を獲得。 ・課長補佐が調整し、担当保健婦ができるだけ策定作業ができるように、事業等を分担し、課員総協力で事業等を行う。 ・課長が首長・議会議員へ進行状況、各会議での意見や要望等を積極的に随時報告した。</p>	<p>・県職員も県実施の研修会に積極的に参加した。</p>	<p>・県職員も県実施の研修会に積極的に参加した。</p>

<p>【Ⅲ】地域の実態 住民ニーズの把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の課内会議で、現場職員・住民・関係課から意見等を聞くことが決まる。</li> <li>・課長補佐が関係課等と調整し、担当保健婦がまとめ役となり、会議を開いて意見・要望等を収集した。また、これには、課長、課長補佐も必ず出席した。</li> <li>・保健所に広域的な情報、また奈義町の母子保健に関する情報の提供や策定の手法について指導助言を得た。</li> <li>・新人保健婦が中心で健診カルテ、教室等でのアンケート調査から情報を得た。</li> <li>・現在実施している母子保健サービスの状況を分析した。</li> <li>・町づくり総合計画、国勢調査等から情報を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛育委員・栄養委員 主任児童委員 各PTA会長 母親委員 母子クラブ 民生委員の出席がな かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会「地区診断とは」 対象 奈義町保健婦・課長補 佐・保健所保健婦 講師 県公衆衛生看護学校 資料の提供 「平成7年度からの母子保健 継続討議のまとめ」 特別事業 「子育て支援事業」結果の提 供と共有 統計資料の提供 ・他町の母子保健計画の手法を 助言</li> </ul>
<p>【Ⅳ】計画（施策）化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報等を基に、担当保健婦がまとめ作業を行い、計画原案を作成した。</li> <li>・原案を課員、保健所で検討し修正した。</li> <li>・原案を首長はじめ3役・総務課長等に回覧し決裁を仰いだ。</li> <li>・具体的な目標については、計画書を参照。</li> </ul> <p>(課題・問題点・苦労したこと)・策定委員会というものを作らないですすめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各会議で、多数の意見・要望が出され、それを要点をしぼり、具体的文章にし たり、同じ問題点にまとめ、その中から方向性を見いだして目標を設定する 作業が一番時間がかかった。</li> <li>・誰が読んでもわかる、読んでみようと思うような内容、レイアウト等にこまる。</li> <li>・当時栄養士が、産休代理の臨時栄養士で、いろいろと参画してくれたが、栄養 士のかかわる部分を十分取り上げることが、できず保健婦中心のものになって しまった感がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の会議に奈義町担当保健婦と 婦長と参加し、アドバイスを 実施。</li> </ul>

<p>【V】計画の具体化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民等からの情報収集時から、計画策定と同時進行でなぎチャイルドホーム（放課後保育）が実現化に向けて進んでいく。そして平成9年4月オープン。</li> <li>・乳幼児医療公費負担の、対象年齢引き上げが議会で取上げられ、計画より早まる。（5歳未満 10年度より実施）</li> <li>・よちよち広場の開催とよちよちだよりの発行。</li> <li>・両親学級の開催。</li> <li>・母子保健連絡会の発足。</li> <li>・山陽新聞によちよち広場等を取上げて、母子保健計画について掲載される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健連絡会に委員として参加。</li> </ul>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当保健婦を中心に、課長・課長補佐・課員の策定に対する理解や取り組み意欲が高かった。</li> <li>・誰でも理解できて、読んでみようと思うように、夢のある楽しいイメージの冊子の冊子づくりに努めた。</li> <li>・行政全体・職員間の取り組み姿勢がいかにかに大切か、よくわかった。この経験を他の事業にも活かしていきたい。よい仕事は良い人間関係と良い連携から……。</li> <li>・忙しい毎日の業務の中で、何を整理すればよいかかわからなままに活動し、住民が何を必要としているのか、現場の意見等聞くこともあまりなかった。今回の策定で今、何が必要なのかはつきりし、仕事を効率化したり、面白くしていくことができた。</li> <li>・各会議で情報収集をしたが、これをまとめた原案をつくるまでに時間がかかり、他の事業にも追われ策定するのが精一杯で、課のメンバーには検討してもらっても、会議の現場職員等の他のメンバーに検討してもらって時間がなく、出来上がりをみてくださったが、前年度が研修で、策定は丸々1年費やせる計画でないといふのが研修等を開催して指導をしてくださったが……) ただし、保健所が早くから母子保健について時間的に難しい。（その町や担当の心構えもあるが……) ために役に役だった。</li> <li>・継続的に取り上げてまとめていくことは、多いに役だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成7年度より、管内保健婦会で母子保健継続討議を推進していった。また、保健所の地域保健特別事業で「子育て支援事業」を推進し、問題点・課題の抽出ができていた。（長期でみる必要性を感じていた）</li> <li>・奈義町の上司（課長・課長補佐の理解が素晴らしい。担当保健婦の「どうせ作るのなら、いいものを」との意気込みがあった保健婦が平成8年度より1名採用になり、3名になった。</li> <li>・母子保健計画を作成することにより、長期目標、評価等他事業への取組みが変化した。</li> <li>・補助金があれば良いかと思う。</li> </ul>